

外からも室内からも楽しめる「オープンファサード」を

井田洋介さんのガーデン講座、最終回は「オープンファサード」です。道ゆく人を楽しませ、自分も癒され、街並みも美しくする、そんなオープンファサードを実現するテクニックを、実例とともに教えていただきました。



いだ・ようすけ
井田 洋介
ガーデンデザイナー、
園芸研究家
1944年11月、大阪生まれ。
東京都立園芸高校卒業。
造園と園芸の店
「アウトテリア民園」主宰。
ガーデンデザイナー、
グリーンコーディネーターの
草分け的存在。
NHK「趣味の園芸」
「私のガーデニング」や
雑誌、講演など幅広く活躍。
著書多数。

プライバシーを守りながら 開放感のあるプランを

道路との境界から建物までの前庭を、塀などで区切らず開放的にしつづらるのが「オープンファサード」です。空間を仕切らないので、狭い敷地でも広く感じられ、開放感を味わえるのが魅力です。ここに樹木や花を植えれば、道ゆく人々が緑の空間を楽しめますし、美しい街並みづくりに

貢献できます。
オープンファサードは、外からだけでなく、部屋の中からも楽しめるようにしたいもの。そのためには、塀などは極力低く抑え、空間の広がりを損なわないようにします。ただし、住む人のプライバシーを守る必要があるため、道路面よりも庭の床レベルを高くしたり、要所要所を植栽で目隠しするなど、外からの視線をさりげなく遮る工夫をしましょう。

Lesson 1



道路からフラットにつなげて広がり 低い塀+雑木でさりげなく目隠し

I様邸 K様邸

角地に建つI様邸。2方向の道からの視線を無理に遮断せず、むしろオープンにすることで、道のスペースまで取り込んだ広々としたオープンガーデンが完成しました。

K様邸は、道路の境界から2mほど内側に門を設置。一見ムダなこの前面のスペースが道と敷地をつなげ、限られた空間に余裕を感じさせてくれます。

1m前後の低い塀や株立ちの雑木で、要所要所をさりげなく目隠し。開放的でありながら上手にプライバシーを守っています。(I様邸)



玄関の階段脇にも低い塀を設けて、前のボーダー花壇に道ゆく人の視線を集め、株立ちの雑木で玄関をさりげなく目隠し。(I様邸)



門を少し引き込んだだけで、空間にゆとりが。ここは北向きなので、花壇にはギボウシやシダなど日陰に強い植物を。(K様邸)

Lesson 2



門を省き家と花壇を一体化 面積以上の奥行きと開放感を

I様邸

道路ぎりぎりまで建物が来ているので、門やフェンスなどで仕切りをつくらずに、建物と一体化したオープンファサードを提案。建物の壁面部分には、奥行き1m前後のボーダー花壇をデザインしました。レンガの硬い感じに枕木や植物が加わることで、ナチュラルでやさしいイメージに。



日当たりのいい玄関の右の花壇にはコニファを。左の花壇は株立ちの雑木がアクセントになって、門のない玄関まわりを引き締めています。

Lesson 3

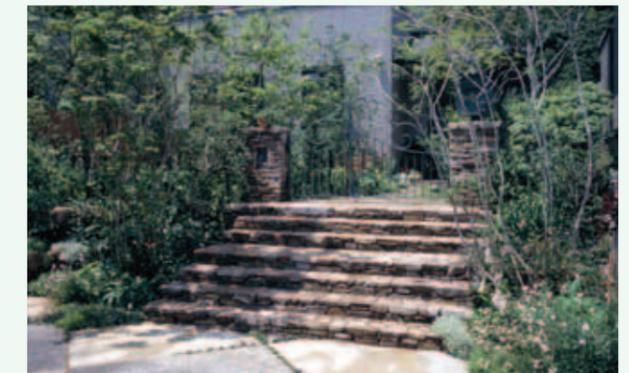


塀を設けず、敷地に高低差をつけて 道からの視線を遮る

K様邸

道路との境界に駐車場スペースを設け、その内側から50cmの高さの石垣を2段設けて、庭を道路から1mの高さに。こうすることで、塀を設けなくても道からの視線が届きにくくなり、庭としての独立感を確保できました。家から外を見ると、駐車場から道路までがひと続きのスペースになり、広々とした借景になって気持ちがいいそうです。

アプローチの階段は間口3m。一見ムダな広さのようですが、このゆとりが外観全体を広々と感じさせ、家の印象をアップしてくれます。



2段の石垣には花壇を設け、植物や雑木を植え、庭をさりげなく目隠ししています。右のダイヤ柄の床が道路前に設けた駐車場。

